**日本政府への抗議文**

**安重根義士に対する日本政府の妄言を強く糾弾する**

去る7月安倍晋三総理は「伊藤博文は内閣大臣であり、長州では尊敬されている偉大な人物」と、韓国や中国が共に推進している安重根義士記念石碑の建立事業を批判したことに続き、最近、菅義偉官房長官や世耕弘成官房副長官等、日本政府の責任ある当局者が安重根義士を単なる犯罪者と卑下する妄言を次々と吐き出している。これは外交的な儀礼を欠いているだけでなく、日帝の侵略により莫大な被害を被った近隣諸国の心を全く考慮しない、道義を欠いた挑発として糾弾されて当然である。

安重根義士が偉業の後の裁判過程や獄中で著述した『東洋平和論』を通じ、伊藤博文を処断した1５の理由を明瞭に説明したことはよく知られている事実である。伊藤博文を射殺した理由は、伊藤博文は朝鮮を植民地に転落させた元凶であり、東洋の平和の破壊者であったからである。私的な感情や恩怨による個人的な行動からではなく、朝鮮の独立と東洋の平和という大義のために、抗日義兵長としてくだした政治的決断だったのである。そうであったから、当時の韓国と中国の人民が異口同音に安重根義士の快挙を称賛したのはもちろんのこと、日本の良心的な人々も安重根義士の信念に感服したのである。

日本帝国主義は安重根義士の警告にもかかわらず、朝鮮を強制併合してアジア一帯を侵略することによって、アジア民衆を虐殺し、自国の国民までも死へ追いやる惨劇を招いた。そしてこれは二回の原子爆弾の被爆という悲劇的な結末となった。日本の為政者たちはこの峻厳たる歴史の教訓をもうすっかり忘れてしまったのか。最近の日本政治家たちの過去に逆行しようとする振る舞いは、日本が今までの中途半端な反省までも廃棄して本格的な右傾化の道に立ち入りつつあるという疑いの念を惹起するに足りる。安倍総理の話した「私を右翼の軍国主義者と呼びたいなら呼んでいただきたい」という背筋が凍るような言葉だけを取上げても、これを証明するにあまりあるであろう。

もはや日本政府は平和憲法改正、靖国神社参拝、領土領海問題、徴兵・徴用・日本軍「慰安婦」などの敏感な懸案において遠慮なく本性をさらけだしており、過去史に対する最低限の反省を込めた村山談話ですら否定しようとしている。これは、日帝の侵略戦争や植民地支配が合法的かつ正当だったという日本の極右勢力の認識を代弁する反歴史的な振る舞いであり、東アジアの平和と安定を害し、日本の未来を脅かす危険な現象でしかない。

21世紀に入り過去の帝国主義侵略戦争と植民地支配、また人権蹂躪に対する真の反省は今や世界的な傾向となりつつある。ドイツの熾烈な反省と徹底した賠償は絶えず続いており、英国のケニアマウマウ団(ケニアの武装独立運動団体)関連者虐殺に対する賠償、オランダのジャカルタでの虐殺に対する謝罪、ニュージーランドの先住民マオリ族に対する賠償等は、はるか昔の過去史であっても必ず解決すべきであるという責任意識がもはや時代精神になりつつあるのである。

日本はなぜ、敢えてこのような世界的な流れに逆行しながら帝国主義時代の誤りを繰り返そうとしているのか。「過去を忘れた者必ずその誤りを繰り返す」という警句は、今日の日本が耳を傾けるべき金言である。

我々は韓国の独立英雄であり東洋平和の提唱者である安重根義士に対する日本政府の冒瀆を強く糾弾し、妄言を直ちに撤回して謝罪することを要求する。それとともに、過去の帝国主義犯罪の歴史を心から反省し、東アジア平和共同体の一員として合流することのみが日本の明るい未来を切り開く唯一の選択であることを明らかにしておく。

我々の要求

１．日本政府は安重根義士を冒涜する妄言に対し、即刻謝罪せよ。

２．日本政府は軍国主義回帰を即刻中断し、東アジア平和体制構築に協力せよ。

３．日本政府は過去の歴史を直視し、真の対策を樹立せよ。

2013年11月26日

抗日独立運動家団体連合会

安重根義士紀念事業会(会長 咸世雄), 丹斎申采浩先生紀念事業会(会長 金元雄), 社団法人大韓民国臨時政府紀念事業会(会長 金滋東), 社団法人梅軒尹奉吉月進会(会長 李佑宰), 社団法人夢陽呂運亨先生紀念事業会(会長 李富栄), 溥斎李相卨先生紀念事業会(会長 李在禎), 雲岩金星淑先生紀念事業会(会長 閔星軫), 旦洲柳林先生紀念事業会(会長 金永千), 榴亭趙東祜先生紀念事業会 (会長 鄭英熹), 東泉南相穆義兵将紀念事業会 (会長 金佑銓), 石正尹世冑烈士紀念事業会 (会長 柳鐘玄), 新興武官学校紀念事業会 (常任共同代表 尹慶老), 宇醒朴容万紀念事業会 (会長 韓鎔源), 張俊河先生紀念事業会 (会長 劉光彥), 車利錫先生紀念事業会 (会長 車永祚), 学山尹允基紀念事業会 (会長 林鄒燮)